

告 辞

本日ここに、多数のご来賓、保護者の皆様方のご臨席を頂き、平成24年度三重短期大学学位記授与式を挙行するにあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

この佳き日に、栄えある短期大学士の学位を受けられました311名の皆さんには、心よりお慶び申し上げますとともに、これまで皆さんの成長を心から願ってこられました保護者並びにご家族の皆様方におかれましては、そのお喜びもひとしおのことと、重ねてお慶び申し上げます。

さて、今年は、伊勢神宮では式年遷宮が行われます。20年に一度の行事ということで、全国から多くの皆さんが三重にお越しいただきます。津市の香良洲地域においても、今月29日から31日にかけて「お木曳き行事」が行われます。この行事も伊勢と同じく香良洲神社の本殿を20年ごとに新しくするための行事で、津市の無形民俗文化財として指定されています。どちらの行事も本殿を新しくするという重要な節目の行事です。

本学をご卒業される皆さんにとりまして、本日、この式典は、大変重要な節目の行事であると思います。皆さんの中には、就職して仕事を始める人、また、新たに四年制大学に編入して勉学を続ける人もおられます。いずれの場合も、世の中で責任のある立場に立つ、という自覚を強く持っていただくことを期待いたします。

人生には常に節目があります。卒業、就職、結婚、そして親になる。即ち節目とは、何か新しく出発する時であって、自分自身を進歩向上させる大変良い機会であります。

時には、失敗や挫折を味わうこともあるでしょう。そのような時は、一度立ち止まって、過去を振り返ることも大切です。そして、次の新たな出発への節目と考え、自分自身を進歩向上させてください。

伊勢音頭の一節に「伊勢は津で持つ、津は伊勢で持つ」と歌われています。津藩主の藤堂高虎公が城を築き、城下町に伊勢街道を通して宿場町とし、伊勢国及び津藩に繁栄をもたらした功績を歌

ったもので、「伊勢の国は、津藩によって繁栄する。津藩は伊勢神宮のおかげで繁栄を続けられる」という意味です。今年の伊勢神宮式年遷宮においても、津なぎさまちの高速船を利用して、全国から参拝客で賑わうことでしょう。現代でも、「伊勢は津で持つ、津は伊勢で持つ」です。

この２年間、津市立である本学で学ばれた皆さんは、津市民から応援され、大きな期待を持たれています。このことをしっかり自覚していただきたいと思います。これは、つまり「三重短期大学は津で持つ」という津市民の強い意思でもあります。

今日の節目を迎えられた卒業生の皆さん、次は是非、「津は三重短期大学で持つ」と言われるような素晴らしいご活躍をされますことを設置者として祈念しております。

本学は、昨年創立６０周年を迎えました。この６０年間で、約１８,０００人を越える本学の卒業生が、社会の中で信頼を創造し、幾多の実績を築いておられます。

まさに、「三重短期大学は、卒業生で持つ」と言えます。今日の節目で、皆さんも、「三重短期大学を持つ卒業生」の一人であるという自覚を胸に、新たなステージへと進んでください。

皆さんは、今より社会に旅立つわけですが、三重短期大学で学んだ知識や教養はもちろんのこと、人としての優しさと思いやり、「ありがとう」という感謝の気持ちを忘れずに、それぞれの舞台上で活躍されますことをご期待申し上げますとともに、皆さんの輝かしい前途に幸多かれとお祈り申し上げます、告辞といたします。

平成２５年３月２０日

津市長 前葉 泰幸